

幼稚園だより

令和4年5月31日

墨田区立八広幼稚園

園長 金澤 里美



—6月号—

思いを言葉で伝えること

園長 金澤 里美

5月、連休明けのある時、ぞう組さんの誰かの「ザリガニ釣りにいきたい」という言葉をきっかけに、あっという間に子供たちの間で話が盛り上がりました。担任から、去年の年長さんが釣ってきて今お世話をしている3匹のザリガニはどうする？みんなが釣ったザリガニは全部連れて帰ってくるの？それから、めだかの小道には歩いていくけど結構遠いよ、など話をしたところ、どうしたらいいか皆で考えようということになり、その後、学級の皆で相談する時間が設けられました。最終的に「今飼っているザリガニは連れていき、川に返す」「ザリガニマンションに入るのは8匹までだから、8匹連れて帰ってきたい」「当番の仕事も、今のグループの担当を入れ替えて…」など、皆でいろいろなことを決定しました。途中で「その考えはいいけど、でも、こんなことで困るんじゃない？」など、新たに出てくる疑問もあり、話し合いは数日かかりましたが、そんな時に、以前はなかなか意見を出せなかった子が積極的に話していたことや、自分の考えを言うだけでなく、友達が話しているときにはきちんと聞こうとする姿が多く見られるようになったことにも成長を感じました。

さて、うさぎ組さんももうすっかり園生活に慣れ、自分の思いを出しながら伸び伸びと遊ぶ姿が見られるようになりました。友達と関わりたい気持ちも出てきています。そんな中で、「入れて」「貸して」など、友達に伝える場面があります。入園前、お家の方と一緒に遊んでいた時は、その答えはいつも「いいよ」だったかもしれません。でも、友達同士では「だめ」「使っているからあとで」という返事が返ってくることもあり、「使いたいののに貸してくれなかった！」と、涙が出てしまう子もいます。そうだね。二人とも使いたいんだね。だめなときもあるね。など、まずは一人一人の思いが出せるよう、教師は気持ちを受け止めます。思い返すと、今のぞう組さんも、1年前は同じような姿が見られ、「なんでだめなの！」「やだ！」と、気持ちがぶつかり合っていることがよくありました。うさぎ組6月のねらいに「自分の思いを出す」とあります。まずはここから。自分の思いが相手に伝わり、また、相手の思いが分かる楽しさや喜びを感じられるよう、私たちはじっくりと話を聞き、必要に応じて言葉や言い方を知らせ、子供たちをつなぐ役割をしながら支えていこうと思います。

明日はいよいよめだかの小道への遠足。ザリガニ釣りはかなり根気がいるけれど、上手に釣れるでしょうか？自分たちで決めたことにはしっかりと取り組むぞう組さん、ザリガニをたくさん連れて帰ってくるようになったらお世話も張り切ってすることでしょう。私も、子供たちと一緒に、楽しんできたいと思います。

【6月のねらい】

うさぎ組

- ・同じ場にいる教師や友達と遊ぶことを楽しみながら、自分の思いを出す。
- ・皆と一緒に活動する楽しさを感じる。

ぞう組

- ・自分なりにめあてをもって繰り返し取り組む楽しさを味わう。
- ・栽培物や飼育物に興味・関心をもち、発見したことを伝え合う。